



を軸にしている。「英語の授業は3つのレベルに分かれていて、自分の英語力に合った内容で勉強しやすいです。確実に伸びていると思います」と戸部さん。「一番大きなイベントはオーストラリアでの3カ月留学。自分がすごく変わった」と話す。GSCでは高1生全員が3カ月間、オーストラリアのアデレードでホームステイしながら現地校へ通う。「最初はあまり行きたくなかったんです」と稲本さん。「親とこんなに長い期間離れるのも初めてでした。でも4年近く一緒に過ごしてきたクラスのみんながいるから心強かった。みんな英語を学びたいという強

い気持ちがあるから、それぞれの目標を持ってがんばっていると思うと励みになりました」と振り返る。加えて、大きな気づきがあったという。「日本人として日本の文化を知ることが大切だということです。実践には、中1で礼法の授業があるのですが、当時はよくわからずに…。でも、オーストラリアに行つてその意義に気づくことができました」最後に、二人から帰国生へ。「英語に興味があったり、英語をもっと学びたいなら絶対GSCです。実践の先生はチャレングングな情報をいろいろ提供してくれるので、自分を成長させる機会がたくさん



# 強い気持ちを持つ仲間とともに。

日本女性として、世界へ羽ばたく

「にほへやしまの外までも」

校歌に歌われる「やしま」とは日本のこと。創業者下田歌子がこの一節に込めたのは「教え子たちの活躍が世界に広がってほしい」という思い。今、実践女子学園には多くの帰国生が集い切磋琢磨する。『グローバルスタディーズクラス (GSC)』は、伝統と革新が融合した先進的な国際学級だ。国際社会に貢献できる日本人女性をはぐくむことを私学としての責務と捉え、帰国生教育を重視する。116年にわたる伝統のなかで築かれたグローバル教育がここにある。



実践女子学園中学校高等学校



「GSCでは、みんな英語が好きでがんばっている。私もモチベーションが上がりました」と話すシンガポールからの帰国生の稲本果奈さん(高2)。さまざまな環境で育ってきた10代の女の子たちが共に切磋琢磨する。そんな環境が実践女子学園の魅力の一つだ。同じくGSCでアメリカからの帰国生、戸部珠海さん(高2)は「クラスの約半数は帰国生。考え方も似ているし、気の合う子も多いです。でも、入学するときには不安がありました。6年間同じクラスなので、もし対立

したら気まずいだろうなど。みんな自分の意見を持っているので、最初のころはぶつかりました。でも、お互いにいいところも悪いところも全部受け入れることができた。本当の自分をバン！と表現できています」と本当に楽しそうに話してくれた。

同校が本格的に帰国生の受け入れを開始したのは2007年度のこと。翌2008年に国際学級『GSC』が開設された。広報部長の松下寿久先生にその意図を尋ねると「帰国生と言っても海外での生活歴や学習歴は多様です。本校の帰国生教育の目的は三つあります。一つ目は、帰国生の個性や能力(英語力、国際感覚など)を学校教育の中で画一してしまうのではなく大きく伸ばすこと。二つ目は、日本人としてのアイデンティティを確立させること。日本への愛情や日本人としての誇りといった根っここの部分をしっかりとつくりたい。そして三つ目は、学校全体をグローバル教育の土壌にすること。多様なバックグラウンドを持つ生徒たちが共に学ぶ環境こそが、グローバル教育の基盤と考えるからです。生徒たちには、活躍の場が日本であれば国際人として、世界であれば日本人としての誇りを持って活躍してほしいですね」

GSCは入学前に高い英語力を持つ生徒を対象とするため、国内生もいるが必然的に帰国生の割合が高いクラスだ。身に付けている英語力をさらに伸ばし、より高いレベルでのグローバル人材育成を目指す。洗練された語学力、グローバルな教養と意識、日本人女性としての品格。そんな楽しみがこの学校にはある。



模擬国連国際大会はニューヨークの国連本部で開催される



第8回全日本高校模擬国連大会にてサウジアラビア代表として最優秀賞を受賞